



【本号のトピックス】

第24回学術大会案内／在宅療養支援歯科医療を実践するための シリーズ研修(各論)報告／支部活動たよりほか

日本老年歯科医学会第24回学術大会のご案内

このたびは一般・課題演題とも多数の応募を頂戴し、有り難うございます。この紙面をお借りして、本大会の特別講演、教育講演、シンポジウムなどの企画についてご案内いたします。

大会のテーマは「元気で長生きを—高齢者歯科医療の未来を考える—」でございます。

6月5日（水）の特別講演は、元気で長生きをするために欠かせない食について、食品栄養化学の第一人者である伏木 亨先生が「おいしさの科学～科学の目で探検する味覚と嗜好とおいしさ～」と題して、科学的な切り口で食と健康についてお話し下さいます。

ミニシンポジウム1では、まず会田薰子先生に「高齢者の終末期ケアにおける意思決定を考える一胃ろう問題を中心に」と題して人工栄養適応に関する教育講演を頂戴し、その後「終末期高齢者に対する歯科医療と口腔ケアの役割」について討論していただく予定です。

さらに教育講演をもう一つ、大宿 茂先生に「摂食・嚥下障害の臨床における頸部聴診法の実際と病態別摂食・嚥下リハの進め方」について御教授いただきます。

シンポジウム1では、口腔環境と全身疾患との関連性について、現在歯数と全身疾患の大規模調査をもとに討論を予定いたしております。

シンポジウム2では「アンチエイジングに対する老年歯科医療の役割」をテーマに、抗加齢医学の現状と歯科におけるアンチエイジング外来について紹介をいただき、口腔領域の加齢変化とそれに対する取り組みやゴールについて考えていきたいと思っております。

高橋一也

第24回学術大会準備委員長

大阪歯科大学高齢者歯科学講座



6月6日（木）の特別講演は、NSTを日本で広められた東口高志先生に、「食べて治す。食べて癒す。」をキーワードとする病院自宅化および自宅病院化プロジェクトについてお話しをいただきます。

ミニシンポジウム2では、「口腔機能の管理、栄養管理における歯科の役割」について討論していただく予定です。

シンポジウム3では、「地域で最期まで生きるために～高齢者の食と栄養を考える～」をテーマに医師、歯科医師、管理栄養士、歯科衛生士の立場から食と栄養について討論していただきます。

シンポジウム4では、周術期の口腔機能管理が診療報酬改定で新設されて1年が過ぎ、臨床の場でどのように活用されているか報告いただき、問題点や今後の方向性について討議を行

う予定です。

衛生士シンポジウムでは、在宅歯科医療における歯科衛生士の活躍の場について、訪問歯科衛生士、看護師、衛生士教育の立場から、何が求められているのかをお話いただきます。

最後になりましたが、5日（水）の午後7時から、国際会議場に隣接するホテルで食の台所大阪の特色をこらした懇親会を行う予定でございます。皆様、奮っての参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

在宅療養支援歯科医療を実践するためのシリーズ研修（各論）報告

一般社団法人日本老年歯科医学会東京都支部と、NPO 法人歯科医療情報推進機構が主催した在宅療養支援歯科医療を実践するためのシリーズ研修会が、厚生労働省の後援において以下の日程と内容で日本教育会館にて開催されました。

（第1回）

平成 24 年 10 月 21 日（日）10：00～16：00

テーマ 1 「全身疾患有する高齢患者への対応」

講 師 鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座教授 日本老年歯科医学会理事長
森戸光彦 先生

テーマ 2 「実際訪問歯科診療を行っている立場からみた実践研修（1）」

講 師 NPO 法人歯科医療情報推進機構
特別講演「みてわかる口腔カンジダ症」
講 師 鶴見大学歯学部附属病院口腔機能診療科講師 中川洋一 先生

（第2回）

平成 24 年 11 月 18 日（日）10：00～16：00

テーマ 1 「在宅歯科医療システム概論」

講 師 鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座
講師 菅 武雄 先生

テーマ 2 「実際訪問歯科診療を行っている立場からみた実践研修（2）」

講 師 NPO 法人歯科医療情報推進機構

（第3回）

平成 24 年 12 月 2 日（日）10：00～16：00

テーマ 1 「在宅歯科医療（診療分野）」

テーマ 2 「在宅歯科医療（ケア分野）」

講 師 鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座
講師 菅 武雄 先生

（第4回）

平成 24 年 12 月 16 日（日）10：00～16：00

テーマ 1 「在宅歯科医療（リハビリテーション分野）（1）」

テーマ 2 「在宅歯科医療（リハビリテーション分野）（2）」

講 師 日本大学歯学部摂食機能療法学講座
准教授 戸原 玄 先生

在宅歯科医療の拠点となる「在宅療養支援歯科診療所」の設置基準に研修の受講が義務づけられていますが、本研修会はこの基準を満たした診療所の歯科医師、歯科衛生士を対象に、さらに専門的な在宅歯科医療の研修を行う目的で開催されました。

受講者はのべ 200 名で、受講者からは、今後このような在宅歯科医療に関する専門的な研修会が老年歯科医学会の各支部主催で展開され、会員のレベルアップに寄与することを期待するとの声が多く聞かれました。（文責：広報委員 渡邊 裕）



支部活動たより

支部組織検討委員会

「口腔湿潤剤フォーラム 2013」の開催に向けて

来る平成 25 年 5 月 12 日(日曜日)10~17 時に、鶴見大学会館において「口腔湿潤剤フォーラム」が開催されます。このフォーラムは本学会が主催する認定研修会(4単位)です。開催の主旨は、口腔湿潤剤に関わるすべての人、製品、情報を集めてしまおう、というものです。現在多くの口腔湿潤剤が市販されるようになり、選択の幅が広がっていますが、それは逆に選択に迷うという混乱も招いているのです。正しい使用法についても十分に周知されているとはいえないかもしれません。いま、口腔湿潤剤についてやるべきことを、すべてやってしまおう、というコンセプトです。

本フォーラムのキャッチコピーは「その、すべてを!」です。口腔湿潤剤のすべてについて知りてしまおう、という意味です。そのために、全国から 11 名の講師を招聘します。基調講演として森戸光彦理事長に口腔のケアについての概略をお願いしました。続いて教育講演を 4 題、ミニレクチャーを 6 題準備しました。

教育講演では、まずレオロジストの方に流体力学の基本をお話いただきます。口腔湿潤剤の粘弾性特性など、材料設計に欠かせない知識です。次に薬剤師の方に口腔環境への応用についてお話をいただきます。口腔湿潤剤の生まれた背景に、口腔環境に対する薬剤局所応用(DDS: Drug Delivery System)があったという重要な話です。そして、基礎を学んだうえで臨床に移ります。まず、口腔乾燥症の基礎と臨床について、そしてオーラルマネジメントの中での口腔湿潤剤について講演いただきます。いずれも高名な講師による貴重な講演です。ミニレクチャーは現場のエキスパートから、そのエッセンスをお話いただく企画です。ドライマウス外来の現状と口腔湿潤剤の選択基準、急性期看護における応用例、口腔湿潤剤に頼ることのないケア手法の紹介、人工呼吸器装着患者さんに対するケアとして口腔洗浄に代わる感染対策への応用とその研修システム、そして死生学を背景としたターミナル・ケア領域のお話を頂く予定です。ご期待下さい。

なお、本研修会は事前登録が必須となっています。必ず FAX にての申込みが必要となっていますので、学会ホームページより書式をダウンロードい

ただき、お申し込みをお願いいたします。

(<http://www.gerodontology.jp/info.html>)

Facebook でもイベントページにて情報提供ならびに活発な意見交換を行っているところです。

皆様のご参加を心よりお待ち申し上げております。

(鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座 菅 武雄)

内容：

基調講演 『超高齢社会における口腔のケア』

森戸光彦(本会理事長、鶴見大学歯学部)

教育講演1 『口腔湿潤剤のレオロジー』

新井武彦(英弘精機)

教育講演2 『口腔湿潤剤の原型としての DDS』

斎藤義夫(鶴見大学歯学部・薬剤師)

教育講演3 『口腔乾燥症の基礎と臨床』

柿木保明(九州歯科大学)

教育講演4 『オーラルマネジメントにおける口腔湿潤剤』

岸本裕充(兵庫医科大学)

エキスパートによるミニレクチャー

事務局：口腔湿潤剤フォーラム事務局

口腔保健協会コンベンション事業部内

電話 03-3947-8761 / FAX 03-3947-8873

E-mail: gakkai2@kokuhoken.or.jp

第 12 回北海道口腔ケアセミナー

日 時：平成 25 年 5 月 18 日(土)

12:00 ~ 16:30

会 場：北海道自治労会館(札幌市北区)

主 催：北海道口腔ケア研究会、日本老年歯科医学会北海道支部

後 援：北海道医師会、北海道歯科医師会ほか

内 容：

教育講演1

『消化器外科領域(特に食道癌)の周術期管理』

～肺炎・縫合不全などの合併症、栄養管理や口腔ケアなどの総合的な合併症対策～

七戸俊明(北海道大学病院消化器外科)

一般演題 I

『周術期の口腔管理—歯科衛生士の役割の実際(仮題)』

中山絵里(北海道大学病院・診療支援部)

特別講演

『口腔アセスメント OAG の教育と活用』

高城 由紀（東京医科大学病院）

教育講演 2

『周術期口腔ケアと地域連携』

北川栄二（北斗病院 歯科口腔外科）

事務局：北海道大学大学院歯学研究科口腔健康
科学講座・高齢者歯科学教室

電話 011-706-4582 / FAX 011-706-4582

金子ひとみ様を偲んで



日本老年歯科医学会の事務局を担当して下さっておりました、口腔保健協会の金子ひとみ様におかれましては、かねてより病気療養中のところ、平成 25 年 3 月 9 日ご逝去な

さいました。ここに謹んで

哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈りいたします。

金子様は、平成 17 年 4 月から本学会事務局をご担当下さり、平成 23 年 3 月に体調を崩されるまでの 6 年間、本学会の運営に多大なご尽力をされました。

業務に関する専門知識はもちろんのこと、一般常識にも精通され、加えて持ち前のやさしさと親しみやすさを兼ね備えた金子様に対して、私たち会員は、実務面における正確な運営は当然のこととして、むしろ安心できる事務局という気持ちを抱いておりました。本当に何につけても金子様を頼りにしていました。

また、金子様は本会の事務局とともに、日本歯科麻酔学会、日本口腔衛生学会、歯科基礎医学会、日本補綴歯科学会、日本咀嚼学会などの事務局も歴任されていたと聞いております。本会をご担当いただいたてから直面した問題は、順に、事務局移管後の運営立て直し、編集事務局の移管、法人化などでした。金子様は、永年培った幅広い人脈を活用して

他学会の情報を収集するなどして、本学会にとって最も相応しく理にかなった方向性について理事会が的確な意思決定ができるように、その時々の学会運営上のコンサルタントとしての役割も果たして下さいました。そのおかげでこれらの難局を無事乗り越えることができ、今日までの学会の発展に多大な貢献をされました。

金子様は他の学会事務局においても同様に振る舞われたことは想像に難くありません。その意味で金子様は、ここ数十年間の我が国歯科医学界の発展を縁の下で支え続けてきた影の功労者であったと言っても過言ではないと思います。

昨年（平成 24 年）6 月にエポカルつくばで開催された本学会第 23 回学術大会において、これまでの本学会への多大な御貢献により、金子様に対し感謝状と記念品が贈呈されました。そのときには、一日も早いご病状回復への想いを会員一同さらに深めたところでしたが、この度の訃報に触れることとなりました。残念です。

金子様におかれましては、これからは、草葉の陰から本学会の発展に叱咤と激励を送って下さるよう会員一同祈念してやみません。

合掌
一般社団法人日本老年歯科医学会理事長
森戸 光彦

編集後記

超高齢社会を迎えた本邦において、本学会の役割はますます重たいものになってきていると感じます。そのような背景のもと、第 24 回学術大会の企画を紹介させていただくとともに、シリーズ研修やますます活性化してきた支部活動も紹介させていただきました。まさに、本会のますますの発展を予感させる充実したものであります。

一方、本会をこれまで事務局担当として支えてくださった金子ひとみ氏ご逝去の報を伝えなければならないことは残念でなりません。合掌

当委員会ではさらに有益なニュースレターとするため、会

員の皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。

（越野 寿）



発行人 森戸光彦

編 集 日本老年歯科医学会広報・研修委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9

駒込 TS ビル 402 (一財)口腔保健協会内

電 話 03-3947-8891 ファックス 03-3947-8341